

2024 年度入試
賢明学院中学校
A I 日程

2024. 1. 13 実施

国 語

(45 分)

- ・ 問題用紙と解答用紙にそれぞれ受験番号を記入すること。
- ・ 答えはすべて解答用紙に記入すること。
- ・ 字数制限があるすべての設問において、句読点など文章記号は字数にふくめます。

受 験 番 号

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

X、「プラスチック」という言葉を口にするとき、あなたがサイショに思い浮かべるものは何だろうか？しわの寄ったレジ袋や、使い捨てペットボトル？それとも、おもちゃ？ブロックやミニカー、あるいは人形？

クレジットカードを思い浮かべる人もいるかもしれない。今や「プラスチック払い」「英語の慣用表現で「カード払い」の意」はお手軽なもの。しかも、本物の紙幣までもがプラスチックになってしまった国さえある。例えばカナダでは、紙幣はもはや紙ではない。二軸延伸ポリプロピレン製で、向こう側が透けて見える。

もし、あなたがすでにプラスチック問題に通じているなら、おそらくは木に引かかったビニール袋や、近所の川を流れていくペットボトル、それに黄色いあひるのおもちゃなど、目に浮かぶかもしれない。あるいは、北太平洋のはるか外洋に浮かぶタイリヨウのプラスチックごみをどこかで見たという人もいるだろう。死んだ海鳥のお腹を開くと、色とりどりのプラスチックの欠片がぎっしりと詰まっていた、という写真を目にした人もいるかも知れない。死をもたらすプラスチックの破片。どれもこれも私たちが毎日使っているありふれたプラスチックばかりだ。しかも、わずか数分でごみや資源物になってしまうようなものばかり。

そのイメージをしっかりと焼き付けておいてほしい。

次に、「プラスチック・フリー生活」というフレーズについて考えてみよう。一体、何が思い浮かぶだろうか？

Y「不可能」という言葉では？果たして、プラスチックなしで生活することは可能なのだろうか？

いやもちろん、みなさんの言うとおり、今の時点では可能ではない。このトウトい惑星の上に、それができる人間はいない。もしあなたがアマゾンで原始的な暮らしを、イトナむ先住民族のひとりであるとか、辺境の奥地で畑をつくり、すべての食材を自分で育てたり、採取したりしているというなら話は別かもしれないけれど……でも、そんな場合でさえ、プラスチックはあなたのところまでやって来るはずだ。今の時代、プラスチックはありとあらゆる場所にある。微小なプラスチック粒子が、大気中にも、地中にも、そして水中にも広がっている——それが現実だ。世界中のプラスチックを追跡する学術調査が次々に行われ、その裏付けは、いよいよ確かなものとなりつつある。

こうした目に見えない微粒子の存在を抜きにしても、今この時代、私たちの大多数が都市型の生活をイトナむ現実がある以上、プラスチックをまったく使わずに生活するということは、ほとんどの人にとって不可能に等しい。今こうして文章を書いているキーボードもプラスチック。電話やタブレットもそう。車にも相当量のプラスチックが詰め込まれている。ほとんどの家は、壁も、床も、照明器具も、何から何までプラスチックだらけ。そして、ありとあらゆる場所で行くつ夥しいプラスチック包装。りんごに卵、入浴剤、口紅、ミニカー、インクカートリッジ……想像しうるかぎり、ほとんどすべての商品がプラスチックに包まれている。

私たちは今、便利で万能なプラスチックが作り出したやっかいな汚染の渦に取り巻かれていて、Z……実際には、日常生活の中でプラスチックを避ける方法はいろいろあるのだ。どこに住んでいようと、何をしたいようと、できることはある。必要なのは、ちょっとした気遣いと、実行力だけ。「知識に基づく行動」と言ってもいい。

「プラスチック・フリー」は言わば最終的なゴールだ。自分たちが生きている間には決して到達しえないけれど（何せプラスチックは何千年も残るわけだから、かなうわけがない）、そんなことは問題ではない。重要なのは、そこに向かうとする「努力」。想像の及ぶかぎりた

くさんの人間が、プラスチックの有害な汚染を排除しようとあらゆる手を尽くして努力することこそを、今この世界は切実に求めている。「プラスチック・フリー」は、目指す。カチのあるゴールだ。何しろ、プラスチックはあらゆる生物の健康を脅かす可能性があって、その汚染は地球上のすみずみにまで急速に広がっているのだから。

（著者 シャンタル・プラモンドン／ジェイ・シンハ 訳 服部雄一郎『プラスチック・フリー生活』より）

問一 ― 線部 a e のカタカナを漢字に直して答えなさい。

問二 X Z に当てはまる適当な言葉を次のア・エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

(同じ記号は二度使えません)

ア さて イ きつと ウ つまり エ だけれども

問三 ― 線部①「プラスチック問題」とありますが、それはどのような問題ですか。―― 線より右側の文章の言葉を使い、次の文に合うように二十五字以内で答えなさい。

・人間が容易に使っているプラスチックが(二十五字以内)という問題。

問四 ― 線部②「プラスチックはあなたのところまでやって来るはずだ。」とありますが、プラスチック・フリーを目指すために必要なことは何だと筆者は言っていますか。文章中から十字でぬき出しなさい。

問五 ― 線部③「不可能に等しい」とありますが、なぜそう思われるのですか。次の文の(A) (C) に当てはまる言葉を文章中からぬき出して答えなさい。

・今の時代、私たちの多くが、自給自足の生活をしておらず、(A 三字)の生活をしており、プラスチックは(B 三字)にも、地中にも(C 二字)にも広がっているから。

問六 ― 線部④「最終的なゴールだ」とありますが、筆者が「最終的な」と表現しているのはなぜですか。最も適当なものを次のア・エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア アマゾンで原始的な生活をする人々が将来的に都市型の生活を営むようになっていくから。

イ プラスチックなしで生活することは、私たちが生きている間には決して達成できないから。

ウ 私たちたくさん人間が、有害な汚染を排除しようとあらゆる手を尽くして努力するから。

エ 地球だけでなく、宇宙にまで汚染が広がるプラスチック問題を解決するには時間がかかるから。

問七 ― 線部⑤「そこ」が指す内容を文章中から十四字でぬき出して答えなさい。

問八 この文章で筆者が最も伝えたいことはどのような内容ですか。次のア・エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア プラスチックを処分することについて

イ プラスチックの使用量の多さについて

ウ プラスチックの便利さや身近さについて

エ プラスチック・フリーを目指す意義について

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「僕」は小学校三年生くらいとき、父の仕事の都合で福岡に住んでいた。「僕」はがき大将で、グループの中にあーちゃんという右足が義足の同級生がいた。あーちゃんはおおらかだが負けず嫌いで「僕」とよく言い合いをした。けんかをしている最中は転んだときでも「僕」たちが差し出す手には頼らず、時間をかけても自分で起き上がるような子だった。

「僕」はあーちゃんと遊ぶときには、あーちゃんの身体のことを考えて、遊ぶ内容にも気を遣うのだった。

やはりあーちゃんといっしょに遊ぶことは気が重かったのだが、月日が流れるうちにそれは苦痛ではなくなっていた。①彼の義足の金具の音も気にならなくなっていたのである。あーちゃんが僕らの仲間になってどれくらいの時間がたった頃だろう。僕たちは近くの田んぼにカエルを捕りにいったのだ。田んぼは通過した台風のせいでぬかるんでいた。ちよっとしたくぼみがあって、あーちゃんはそこにAのである。泥の深みにはまって抜け出せず悪戦苦闘しているあーちゃんに、僕は本当にBに手を差し出していたのだ。彼がハンディを背負っている人だという意識など全くなかった。僕の手は彼の前にごくCに出されていたのである。

すると不思議なことにあーちゃんの手が僕の手を握^{にぎ}ってきたのだ。僕は力任せに彼の身体をひきずり上げるのだった。

「ありがとう」

あーちゃんがそう言ったので、僕はただ照れるしかなかったが、あーちゃんのそんな言葉を聞くのははじめてのこととても嬉^{うれ}しかったのである。

そしてそれから更に月日が過ぎたある日、僕は②「ずっと気になっていたことをあーちゃんに聞いてみたのである。小さな子どもたちが母親に呼ばれて家路についた後だった。広場には僕とあーちゃんと僕の弟^{あに}がいなかった。」

「あーちゃんは、どうしてそうなったと？」

僕はあーちゃんの義足を指さしてそう聞いたのだ。どうしてそんなことを聞いたのか僕にはあのときの自分の気持ちを思い出せない。差し出した手のような自然の質問だった。

「これね」

あーちゃんは自分の足を見てそして笑うのだった。

「電車にはねられたとたい。」

僕の横にいた弟が大声を上げた。

「電車にね？」

あーちゃんはずうなずく。

「a なして、電車にはねられよったと？」

今度は僕が聞いた。

あーちゃんは少し考えたあと再び笑顔で言うのだった。

「子猫^{ねこ}ば助けようとしたったい。」

「b 子猫？」

僕と弟はほとんど同時に声を上げた。

「うん、まだ俺^{おれ}が小さかときに、子猫が線路に飛び出したとよ。ちようど遮断機^{しゃだんき}がおりようときで、見たら電車がその子猫に向かってせまりよった。あつ、と叫^{さけ}んだ瞬間^{しゅんかん}には俺の身体は踏切^{ふみきり}の中へもぐりこんでいたったい。」

僕らは少し黙^{だま}っていた。少ししてあーちゃんに聞き返す。

「c そんで？」

あーちゃんが笑っている。

「d そんだけさ。気が付いたら、はね飛ばされとった。」

僕はあーちゃんの義足のほうの足を見下ろしていた。③「えもいわれぬ痛みが心の中をかけ抜けていく。自分の足だったら、という想像が僕を包み込む。」

「e 子猫はどげんしたね？」

僕がしばらくして聞くと、彼は笑って首を真横に振^ふるのだった。

僕と弟はしばらく言葉を失ったままだった。何かを言いたかったがまとまらなかった。ただ、なぜかあーちゃんがすごく好きになりはじめていたのである。

きれいだった夕焼け空は夜の暗さにのみこまれ始めていて、失敗した水彩画^{すいさいが}のごとく黒くにじみ出していた。

(辻仁成「そこに僕はいた」より)

※ー 義足…失った足を補うためにつける人工の足のこと

問一 A に当てはまる言葉で「ぬかるみなどで歩くことが困難になる」という意味を表す慣用句を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 足を踏み入れた

イ 足をのばした

ウ 足をとられた

エ 足をふみはずした

問二 B・C には同じ言葉が入ります。その言葉を本文中から二字でぬき出して答えなさい。

問三 「あーちゃん」の性別を次のア～ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 男性

イ 女性

ウ 本文の内容では判断できない

問四 線部①「彼の義足の金具の音も気にならなくなっていたのである」とあるが、このときの「僕」の気持ちを言い表している一文をぬき出し、最初の五字を答えなさい。

問五 線部②「ずっと気になっていたこと」とあるが、それは何ですか。「……ということ。」に続くように二十五字以内で答えなさい。

問六 線部③「えもいわれぬ」の言葉の意味として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア なつかしい気持ちがすること
イ どんな絵にも描けないこと
ウ なんとも言い表せないこと
エ とても共感できること

問七 線部a～eの会話を朗読するとき、次のア～エの気持ちを込めて読み上げるとよいものはどれですか。最も適当なものをa～e

の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 思いもよらぬことにびっくりして、思わず口から出た、というような気持ちで。
イ 耐えられないような痛みやつらさを感じながら、思いをめぐらせている重い気持ちで。
ウ その先を聞きたいような、聞くのがこわいから聞きたくないような複雑な気持ちで。
エ とても大変なことだが、なるべく重くならないように何も気にしていないような気持ちで。

問八 「あーちゃん」は本文でどのような人物として描かれていますか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 痛く悲しいできごとに対する悔しさや無念さを心の中に隠している人
イ 自分の取った行動を後悔しながらも、それを見せずに強がっている人
ウ 誰かに聞いてほしかった自分のことを話すことができて喜んでいる人
エ つらい経験を乗り越え、それを感じさせないほど強く明るく生きている人

【三】 次の各問いに答えなさい。

問一 線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直して答えなさい。

- | | |
|----------------|----------------|
| ① 国語のセイセキが上がる。 | ② ゲンインをつきとめる。 |
| ③ 訓練のコウカが現れる。 | ④ センモン家に相談する。 |
| ⑤ サイバン員制度を学ぶ。 | ⑥ 川上から桃が流れてきた。 |
| ⑦ 著しい成長をとげる。 | ⑧ 自らを省みるべきだ。 |
| ⑨ 仕事に時間を費やす。 | ⑩ 労働者を使役する。 |
| ⑪ 芸能人の素顔を見る。 | ⑫ 頭から湯気を立てて怒る。 |
| ⑬ 思い切って株を売買する。 | ⑭ 蒸気機関車に初めて乗る。 |
| ⑮ 視野の広い人になりたい。 | |

問二 ①～⑤の慣用句の意味を次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|----------|------------|-----------|---------------|------------|
| ① 歯が立たない | ② 鼻であしらう | ③ 舌を巻く | ④ 顎を出す | ⑤ 腹に据えかねる |
| ア ひどく疲れる | イ 強くてかなわない | ウ 冷たくあつかう | エ 我慢することができない | オ 驚くほど感心する |

問三 線部の文中での働きを次のア～ウの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 公園に人が集まる。
② あなたはいつも笑っていますね。
③ 小さな虫が飛んでいる。
④ さすがに私も追いかけた。
⑤ 美しい空を見上げよう。

ア 主語 イ 述語 ウ 修飾語